

柏崎市刈羽郡医師会報600号に寄せて

相 田 浩

今年も春を迎えました。新型コロナも落ち着きを見せ、心なしか桜がいつもより明るく美しく見える気がします。医師会報が600号を迎えるとのことで、投稿する機会をいただきました。今日までのその長い歴史に、諸先輩方の大きな自己犠牲を伴う地域医療への熱い思いがあるのだと痛感しております。

4年前に突然転勤してきたにも関わらず、医師会の皆様から温かく迎えていただきました。納涼会や忘年会などにも参加させていただき、皆様に顔を覚えていただく機会に恵まれたのは運が良かったようです。当時厚労省の打ち出した三位一体の改革が大きな問題となっていた矢先に、新型コロナのパンデミックが起きました。その後の3年余りは新型コロナのパンデミックと政府の方針に振り回されてばかりでした。そのような中でも、行政、医師会と私共病院が一体となって事に当たることが出来ました。当地域で医療崩壊が起きなかったのは協力体制の賜物と思っています。そのような活動の主なものを列挙すれば

1. PCRセンターの設立：2020年の5月に、行政の協力のもと県内ではいち早くPCRセンターが稼働しました。このことにより私共の外来が機能不全に陥ることなく、かつ地域の方々にとって大きな安心を持っていただけたのではなかと思えます。

2. 情報連絡会議：当地の新型コロナの流行状況などについて情報交換を行い、行政・医療機関・消防などが同じベクトルで対応できました。大都市などでは、患者搬送困難事例が多数生じていました。しかしながら当地ではそのような事例はありませんでした。

3. 連休の際の診療所の開院：長期休暇の際に、数か所の診療所を開いていただきました。いずれの折も最悪の事態には至りませんでした。このことにより当院の二次救急が維持されました。昨年は当院への救急搬送が過去最高に近い2400台を記録しました。

4. 新型コロナのワクチン接種：集団接種により、多くの方たちへの複数回の接種が完了しました。入院される方々もコロナ自体の毒性の低下などもあり、軽症で退院される方が多くなりました。オミクロンに置き換わってからは上り搬送の患者さんはほぼ皆無となりました。

この3年間はほとんど交流会・懇親会もなく、医師会の先生方との十分な親睦が図れなかったことが残念です。新型コロナ禍から脱出するために多くの知恵を出し合い、ようやくここまでたどり着きました。今後は以前のような親睦を深められるようになれば良いと願っています。

諸先生方の益々のご健康とご発展を祈念いたします。

